

思いやりの心「父の言葉」【2-(2)思いやり・親切】

第5学年〇組 男子〇名 女子〇名 計〇名

こんな授業を提案します

学年の人権教育の目標である「友だちのよさやがんばりを認め、かかわり合いを深めながら、適切に行動できる児童」を目指します。まず、資料の葛藤場面の主人公の行動をネームプレートで一人一人が表し、自分の考えをはっきりもちます。そして、自分の考えとその理由について友だちとかかわり合い、伝え合う場を設定します。そうすることで、自分と友だちの考えのちがいに気付き、友だちのよさを認め、学び合うことができる学習にしていけます。

1 学習指導要領の内容

〔第5学年及び第6学年の内容〕

- 2 主として他人とのかかわりに関すること
- (2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。

2 主題について

主題設定の理由

人が社会という集団の中で共に生きる上で、相手のことを思いやることは、人間関係を豊かにし、温かくするために欠かせないことである。

思いやりとは、哀れみや同情、おせっかいなどではなく、他人の困苦を自分のこととして受け止め、その悲しみや苦しみを理解し、何らかの支えになろうとする心情である。

学校生活の中で、児童は、困っている人にただ親切にすればよいと考えてしまいがちで、相手のことを本当に思いやって行動することは、十分にできていない。本当の思いやりとは何かを考えさせ、進んで相手のことを思いやる心を育てていきたい。

本資料は、黒柳徹子さんが幼少時代、同じ病気に苦しんだ子に対する自分の行為について悩んだ様子が鮮明に描かれている。その時に父にかけられた言葉を通して、本当の思いやりとは何か、相手の立場に立って考えるとはどういうことかを考えることができる資料である。

児童の実態

【人権教育の視点】

人権教育に関するアンケートでは、〇%の児童が「他の人の気持ちを考え、思いやりの気持ちをもつことができる。」と回答している。しかし、「困っているから助ける。」「悲しそうだから優しくする。」ということはできるが、「本当に相手のことを考えた言動は何か。」「本当の思いやりとは何か。」ということを考えることは、まだできていない。

【道徳の時間の視点】

道徳の時間に関するアンケートによると、本校の〇%の児童が「道徳が好き。」と答えている。また、「道徳の時間に学習したことを、自分の生活に生かそうと思うことはありますか。」には〇%、「道徳の時間に学習したことは、自分のためになっていると思いますか。」には〇%の児童が肯定的な回答をしている。

また、本学級の児童は、

<略>

である。

今回の学習では、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って温かく接しようとする態度を育てていきたい。

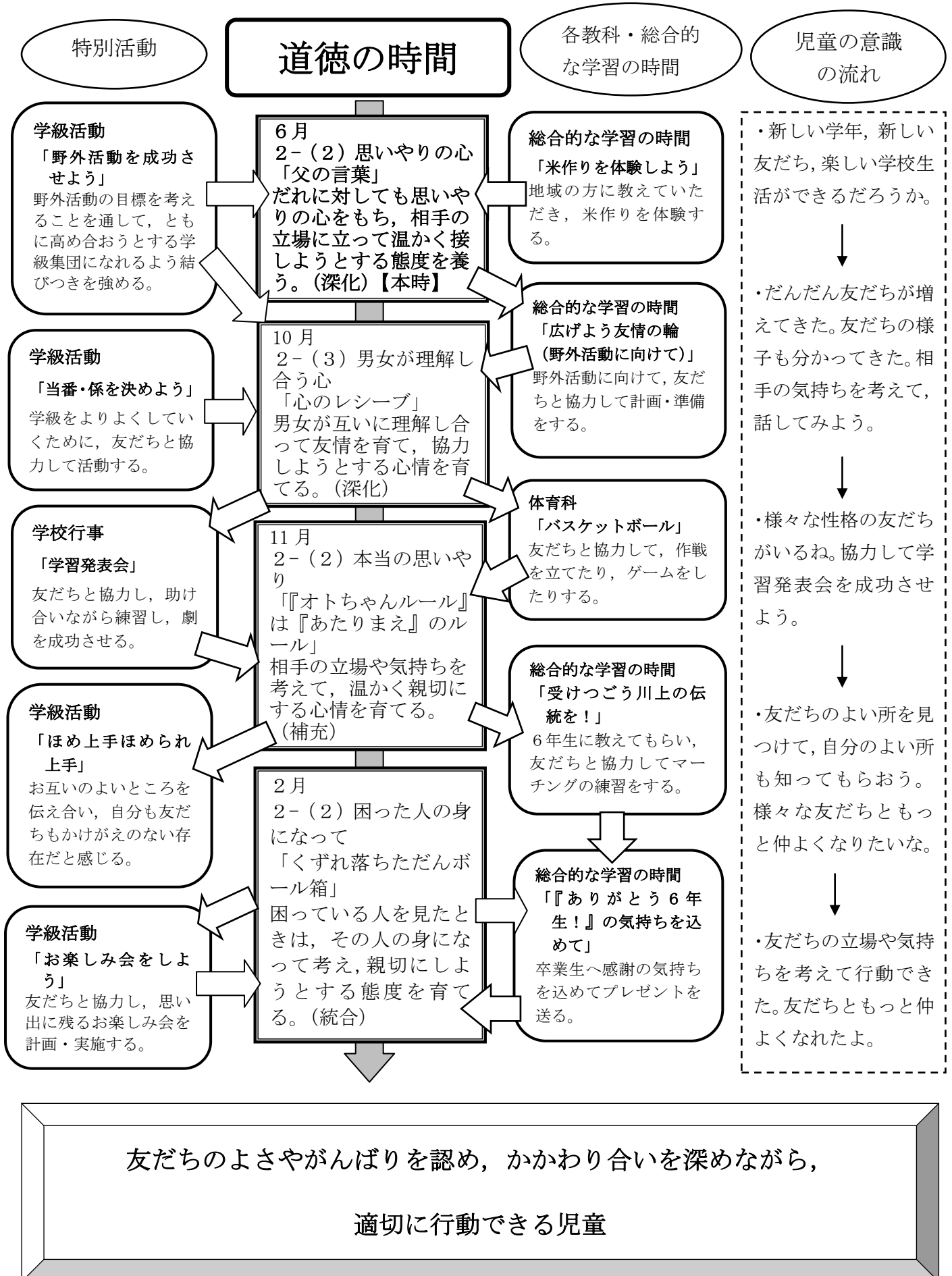
指導の手立て

指導にあたっては、『5年生の道徳』（文溪堂）の「父の言葉」に加え、『小さいときから考えてきたこと』（新潮文庫）の「赤い松葉杖」における私と松葉杖の女の子が出会う場面の文章を引用することで場面把握を容易にし、主人公の心情を考えながら、道徳的価値の自覚を深められるようにする。

ネームプレートを用いて自分の考えた立場を視覚化し、考えを伝え合わせることで、様々な道徳的価値に触れたり、新たな考えを生み出したりする機会をもたせる。また、友だちの考えを聞いたことで自分の考えが変化した児童の発言を大切に、かかわり合いのよさに気付かせたい。

終末では、友だちの経験を思いやりの視点から見つめさせることで、思いやりについての道徳的価値のよさを改めて感じさせ、児童の行動化に向けた心がまえをもたせていきたい。

3 構造図



4 本時の展開

- (1) 主題名 思いやりの心 2-(2)思いやり・親切
- (2) 本時のねらい 父にかけられた言葉により悩んでいる主人公の気持ちを考えることを通して、だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って温かく接しようとする態度を養う。

人権教育のねらい

相手の立場に立って相手を大切にするという人権教育の視点に立ち、相手の気持ちを想像し、適切な表現や行動をしようとする態度を養う。【価値的・態度的側面】

- (3) 資料名 「父の言葉」〔出典：文溪堂「5年生の道徳」〕（一部改作）
- (4) 準備物 場面絵，ワークシート，ネームプレート
- (5) 価値判断表

価値レベル	2-(2)思いやり・親切	判定キーワードとなる児童の反応
1	思いやりのよさに気付くことができる。	例) 思いやりって大切なんだな。 例) 人を思いやるって気持ちいいな。
2	思いやりのよさにに気付き、相手の立場や気持ちを考えることができる。	例) 相手は、・・・という思いをしているのかな。 例) 相手は、・・・と考えているのかな。
3	思いやりのよさに気付き、相手の立場や気持ちを考えて親切にしようという思いをもつことができる。	例) これからは、相手にとって何がよいか考えて行動してみたいな。 例) 今まで・・・だったな。これからは・・・という心をもっていきたいな。

(6) 学習の流れ

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	○指導上の留意事項 ◆人権教育の視点 ◎評価（評価方法）
導入	1 困っている人にどう接するか考える。	困っている人がいたら、どうしますか。 ・助ける。 ・話しかける。	○思いやりの価値について、考えを聞き、資料へ関心をもたせる。
展開前段	2 「父の言葉」を読んで話し合う。	入院している私は、どんなことを考えているでしょう。 ・ずっとこのままなのかな。 ・しんどいな。 ・もう歩けないのかな。 私は、松葉杖を使わずに歩けるようになって、どんな気持ちでしょう。 ・歩けるようになってよかったな。 ・もっとよくなって、走れるようになりたいな。 ・同じ病気だったあの子は歩けるようになったかな。	○入院している時の私の心情を考えさせることで、病気のために、つらい思いをしていることを感じさせる。 ○私の心情を考えさせることで、松葉杖を使わずに歩けるようになった喜びを感じさせる。

《共感を大切にしたかわり合いの場》

		お父さんに「そんなにかわいそうだと思うなら、かくれないで行ってお話しなさい。」と言われた私は、どうすることにしたでしょう。それは、どんな思いからでしょう。 ・どうしよう。 ・あの子にとって、どちらがいいのだろう。 行かない ・私が歩いている所を見せると、つらい思いをするかもしれない。 ・話すことが見つからない。 ・私が歩いていたら、悲しくなるかもしれない。 ・あの子はきつといやな気持ちになるはず。 行く ・喜んでくれるかもしれないから、行ってお話してみようかな。 ・いつもかくれている方が悲しい思いにさせているかもしれない。 ・私になら病気のことも話したいかもしれないから話しに行ってみよう。	○お父さんの言葉によってゆれている私の心情を感じさせる。 ○ネームプレートを使い、自分の立場を明らかにさせる。 ◆グループトークの場を設定し、ワークシートを用いて、それぞれの決定した行為とその理由について話したり聞いたりさせる。様々な考えに触れ、共感したり認め合ったりするとともに、考えを深めさせる。【価値的・態度的側面】 ◆「女の子にとっては、どちらがよいだろう。」と補助発問をし、女の子の気持ちや立場を考えさせる。【価値的・態度的側面】 ○相手の立場を考えて選んだ行為であれば、「行く」も「行かない」も認める。 ○グループトークや集団での話し合いをすることで、自分の考えが変化した児童に思いを発表させる。
展開後段	3 学習したことを通して、今までの生活を振り返る。	「思いやり」とは、どういうことでしょう。これまでの自分の体験を基に考えてみましょう。 ・相手の気持ちを考えること。 ・相手の立場を考えて行動すること。 ・今までは相手のことまで考えていなかったけれど、これからは相手の気持ちも考えたい。	○ねらいとする価値についてまとめ、一般化する。 ◎思いやりとは、相手の気持ちや立場を考えて行動することと理解し、今までの生活を振り返っている。
終末	4 教師の説話を聞く。	友だちの思いやりについて紹介します。	○児童のアンケートから、思いやりについて記述されたものを紹介し、児童の生活につなげる。 ○「私たちの道徳」P. 60, 61 を読んで、思いやりについての道徳的価値のよさを改めて感じさせる。

5 板書計画

